

第1回 啓発プロジェクト 要点録

開催日時：2025年7月22日（火）

14時～15時

開催場所：多摩市立中央図書館2階活動室

当日の議事

1. 啓発プロジェクトの目的と今年度の目標について

2. 自分事化推進に向けて意見交換

～以下内容の要約～

1. プロジェクトの目的

「老いること」や「いずれ介助が必要になること」を、多くの人が自分事として捉えていない現状を認識し、これを自分事として前向きに受け入れてもらうための啓発を進めることが目的。相談する場だけでなく、現在の介護保険制度の人材不足や費用面の変化など、社会の変化についても啓発の必要がある。

2. 「老い」に対する認識と課題

- ・参加者の多くから「老い」はネガティブだと意見が出た。身体機能の衰え、経済的な不安、社会とのつながりの希薄化などが懸念される。
- ・多くの人が健康維持には関心があるものの、「老い」そのものや準備の必要性については認識が薄い傾向がある。自身の健康状態に自信があるため「自分は大丈夫」と考えている人が多いのではないかな。
- ・介護が必要になった時どうするかの問いかけに対し、「その時考える」という回答が多く、事前の準備や意識付けが不足している現状がある。

3. 効果的なアプローチ方法の検討

- ・相談窓口（地域包括支援センターなど）の認知度向上も、重要な啓発活動。
- ・「老い」をネガティブなものとしてではなく、「楽しく年を取る秘訣」というポジティブな視点からアプローチしてはどうか。
- ・対象者によって世代別にアプローチを変える必要があるのではないかな。特に、5歳刻みで身体の変化や世間的な環境が変わる印象があるため、この点を考慮した啓発が有効かもしれない。
- ・単なる説明ではなく、「老いていくことが楽しみにするためにはどうしたらいいのかな？」という問いかけを通じて、老いへのヒント集のような形で啓発を進めるなども一案ではないかな。

4. 今後のアクション

- ・宿題：「楽しく年を取っている人」を見つけ、次回の会議でその方の体験談や秘訣を共有する。

次回会議：8月下旬頃に開催予定。WEB開催とし、希望者には対面での参加場所も確保する。

このプロジェクトは、高齢者が最期まで自分らしく、幸福感を持って暮らせる社会を目指し、「老い」を前向きに捉えるための啓発を進めていきます。

以上